

最近河川中下流の調査によく行きます。よく見る景色は、高水敷に身の丈以上のオギやヨシが一面に密生していたり、グラウンドや公園、畑地があったりといったもので、一見植生は単調に見え、多様な植物が生育しているようには見えません。確かにヨシ原やオギ原はヨシやオギが単独で密生するケースが多く、他の植物はわずかしき見られない場合が多いようです。しかし、よく見ると、ちょっとした所にちょっと珍しい植物が生えているのです。

まずは堤防に登って河川敷を見渡してみましょう。一面のオギ原の中にタチヤナギやジャヤナギといったヤナギ類が小規模な樹林を形成していることがあります。オギをかき分けて、ヤナギ林の下や周りに行ってみましょう。オギ原は背の高いオギが密生しているため、背の低い植物にとっては日があたらず、また余分な空間はほとんどありません。しかし、ヤナギ林やその周りは、オギ原に比べると幾分開放的な空間が形成されています。ヤナギの梢の下は、さすがのオギも猛威を振るうことができないようです。そんなところにしばしば見られるのがノウルシやチョウジソウなどの草本類です。どちらも春季に開花・結実する草本類で、草丈は60cm程度、近頃では珍しい植物です。ヨシやオギ原の中で生きるのには難しくても、ヤナギ林の近くなら何とかやっていけるようです。

再び堤防に登って河川敷を見渡してみましょう。一面のオギ原の真ん中に、周りとは草丈や色の違う部分が見られることがあります。そのような所は周りよりも一段低くなった窪地だったりします。このような窪地は、ついこの間までは川と繋がって



左：ノウルシの果実  
下：ミゾコウジュのロゼット葉



見えるというわけです。最後にグラウンドや畑地の周りを歩いてみましょう。頻りに人が立ち入り、時には車も入っているようです。このよう

ある日のフィールド・ノートから

河川敷を見渡して

た"わんど"で、時間の経過とともに川から分断されたものです。

それでは再びオギをかき分けて行ってみましょう。注意を要するのは、オギ原を勢よく抜け出して窪地にたどり着いた時です。オギ原を突き抜けたとたん、「ズボッ！」と深い泥に足をはめてしまうことがよくあります。窪地は一段低いために水気が多く、ぬかるんでいることが多いのです。このような窪地には、小規模な水溜りが見られ、マコモやクサヨシ、フトイ、ガマといった冠水し泥の堆積した所を好む草本類が生えています。そして水溜り周囲の水際に形成されている裸地にはタコノアシやコイヌガラシといった近頃では珍しい草本類が見られます。このように、ちょっとした窪地であることが環境条件の変化を生み、そこにオギ以外の草本類が生えることになったのです。そしてその結果、堤防から見ると周りとは違った色に

な人為的な攪乱を受けている場所は、セイタカアワダチソウやネズミムギなどの帰化植物が多いのですが、地面をよく見るとシワシワのロゼット葉がたくさん散らばっていることがあります。シワシワ葉の正体はミゾコウジュで、これも近頃では珍しくなった草本類です。高水敷の造成跡地などに大量に発生しているのを見ることがあります。本来は河川の増水による攪乱で生じた裸地などが生育適地なのでしょうが、今では人為的な攪乱によって生育地が造られ、維持されていることも多いようです。

このように、一見単調な河川の高水敷でも、よく見れば多様な植物が密かに生育しています。河川改修などにより消滅してしまったものも多いでしょう。しかし、大昔から繰り返される増水といった自然現象に加え、堰などによる水位変化や、草刈り、そして踏圧といった人為的攪乱に適応しながら、微妙なバランスの上でなんとか生き長らえている川の植物たちがまだまだいることは確かです。このような植物たちがこれからも生き続けられるようにしたいものです。

(本社自然環境調査室・井原寛人)

ご意見 ご質問  
お待ちしております

素朴な疑問や感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail :nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

今年の春は2週間早い? などと言われ、足早に過ぎ去った春を思い浮かべると、毎年の楽しみにしていた山菜を食べていないことが分かりました。フキノトウ、タラの芽、ツクシ、etc. クリの花が咲き、こそばゆいような羽虫のささやきが聞こえてくるような初夏。今の時期に楽しめることは? 桑の実、ホイチゴ…。今、マドの外には、ワカケホンセイインコの群が、右に傾き、キー、キー、左に傾き、キー、キー。塀に向かって飛んでいきます。彼らも日本の生活に完全に定着してしまったのでしょうか? そんな事を考える今日この頃でした。(伊藤 透)

News Letter NO.15 2002年 7月

【発行】.....株式会社地域環境計画

- 発行人.....高塚 敏
- 編集...中山香代子・伊藤 透・鈴木志保子・高岡由紀子
- 東京本社 〒154-0015  
東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル  
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
- 営業窓口...鈴木志保子・伊藤 透・高岡由紀子
- 大阪支社 〒569-1123  
大阪府高槻市芥川町1-15-18ミドリ芥川ビル  
TEL 0726-84-3182 / FAX 0726-84-3184
- 営業窓口.....中山香代子
- 北海道支社 〒001-0017  
北海道札幌市北区北17条西5-20-303  
サンオーIビルF  
TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021
- 営業窓口.....中島正雄